

NPO法人日本ファンドレイジング協会

2010年度 事業・活動報告

<1> 日本ファンドレイジング協会の組織基盤強化

1. 事務局体制の強化
2. 総会・理事会の開催
3. 支援者組織化
4. 広報
5. その他（商標登録）

<2> 寄付文化革新事業

1. 研修事業
2. ファンドレイジング大会の開催
3. 出版事業
4. 普及啓蒙事業
5. その他（講師派遣など）

<事業内容>

<1> 日本ファンドレイジング協会の組織基盤強化

1. 事務局体制の強化
- 1) 職員雇用

2010年6月21日より、新事業（寄付白書創刊・フィランソロピー教育）の推進のために職員1名を雇用した。合わせて、ファンドレイジングネットのサイト管理、ファンドレイジング大会開催などについて、必要時にアルバイトの雇用も行った。

2. 総会・理事会の開催

1) 総会開催

2010年6月21日に2010年度の通常総会を開催。前年度の決算と事業報告、今年度の予算と事業計画を決議した。なお、総会終了後には、今年度の協会諸事業について、出席者全員で考えるワークショップを開催した。

2) 理事会開催

今年度は、下記のとおり、3回の理事会を開催した。

2010年

6月10日：第7回理事会

- ・2010年度総会議案書の決定
- ・2020ビジョンの決定
- ・23年度税制改正要望（公益法人協会との連名提出）の決定

2011年

1月12日：第8回理事会

- ・「第2回日本ファンドレイジング大賞」の決定
- ・2011年度事業計画策定に向けた意見交換

3月30日：第9回理事会

- ・2011年度暫定事業計画決定
- ・2011年度暫定予算計画決定

3. 支援者の組織化

1) 会員拡大

会員数は、個人・法人をあわせて、281人となり、当初の目標250人を上回った。

2011年3月31日現在の会員数は下記のとおり。

運営会員	64人
賛同会員・個人	191人
賛同会員・NPO	24団体
賛同会員・企業	2企業

なお、会員の知見を集約し、かつ協会への参加感を高めるために、総会開催日には、総会議事終了後に「ワークショップ」を設け、協会の諸事業について意見交換を行った。

また、会員の継続率を上げるために期限切れ1か月前には継続依頼レターを、未納金者には期限切れ1週間前、さらに権利喪失直前にメールにて継続を依頼。その結果、一般的に継続率が低いとされる「1年目」においても7割の継続を維持した。

2) ボランティアの組織化

「JFRAボランティアデー」を中心に積極的にボランティア参加を募り、協会の活動紹介、交流とともに、折々、ジャーナルの発送、セミナー、ファンディング大会等で協力を得た。特に、ファンディング大会では、41人のボランティアが大会の開催準備と当日の運営に協力した。

4月

日時：2010年4月20日19:00～20:30

活動紹介と寄付白書について

5月

2010年5月25日19:00～20:30

活動紹介と寄付白書について

6月

日時：2010年6月29日19:00～20:30

FRJ2011(ファンディング大会)運営ボランティアチームキックオフ

7月

2010年7月26日19:00～20:30

FRJ2011運営ボランティア各チーム会議

8月

2010年8月31日19:00～20:30

活動紹介及びファンディングジャーナル発送

10月

2010年10月8日19：00～20：30
FRJ2011リーフレットの発送作業

11月

2010年11月30日19：00～20：30
FRJ2011ボランティア会議

12月

2010年12月14日19：00～20：30
「寄付白書2010」発送

1月

2011年1月14日（金）19：00～20：30
FRJ2011ボランティア説明会・作業1
2011年1月25日（火）19：00～20：30
FRJ2011ボランティア説明会・作業2

2月

2011年2月1日（火）19：00～20：30
FRJ2011ボランティア作業
2011年2月22日（火）19：00～20：30
FRJ2011ボランティア振り返り

3) プロボノやインターンの活用

研究会やセミナーの報告文作成(大学生インターン)、ファンドレイジング行動基準策定(監査法人勤務・公認会計士プロボノ)などで、各種事業に専門性のあるボランティアに協力してもらった。

また、2011年1月から3月の3ヶ月間は地方でのNPOを立ち上げ予定者が、協会でのインターン勤務。こうした人材活用で運営基盤を強化した。

4. 広報

1) マスコミ報道実績

協会では、これまでに接触のあったマスコミ関係者に対して、折々、個々に協会の活

動に関して情報提供をし続けている。その結果、「寄付に関して」の取材を受けることが多々ある。とりわけ2010年度は、寄付白書の発行、タイガーマスク現象などで協会への取材と関連報道が続き、マスコミ露出度が高かった。

取材後に報道された実績は以下の通り。

2010年

- 8月 2日 福祉新聞 「ファンドレイジング 18日から全6回 東京でセミナー」
- 8月 9日 日本経済新聞 「広角鋭角 寄付社会をつくる⑥ 集める側の才覚が大事」
- 8月13日 日本経済新聞 「広角鋭角 寄付社会をつくる⑧ 税制改革 高まる要望」
- 9月24日 福井新聞 「福祉社会在り方模索 つながれボランティアの輪」
- 12月 7日 神戸新聞 「苦戦『赤い羽根募金』善意の使途PR不足」
- 12月19日 ラジオ日本 「マツ安川の価値組ビジネス！」
- 12月24日 毎日新聞 「民間団体が初の白書 09年個人寄付5455億円」

2011年

- 1月 5日 神戸新聞 「日本初の『寄付白書』を発刊したNPO理事 鶴尾雅隆さん」
- 1月 6日 朝日新聞 「始まる？寄付元年」
- 1月12日 日本経済新聞 「覆面の善意は照れ隠し？」
- 1月12日 東京新聞 「寄付の総額は1兆円」
- 1月13日 フジテレビ 「知りたがり！『広がるタイガーマスク運動と日本人の精神』」
- 1月15日 NHK 「ニュース7『児童養護施設の現状』」
- 1月15日 朝日新聞 「日本に寄付文化が根付くか」
- 1月18日 日本経済新聞 「寄付、信託銀行通じ簡単に」
- 1月21日 朝日新聞 寄付 銀行通じNPOへ
- 1月23日 TBSラジオ 「安住紳一郎の日曜天国」
- 1月24日 日本経済新聞 「匿名寄付に共感」
- 1月27日 毎日新聞 「憂楽帳（社説） 寄付10兆円」
- 1月31日 福祉新聞 「09年の個人寄付5500億」
- 2月 3日 テレビ東京 「ワールドビジネスサテライト『タイガーマスクの経済学』」
- 2月 5日 読売新聞 「匿名寄付 各地で昔から」
- 2月11日 毎日新聞 「『寄付の教室』NPOなどを知り“援助”」
- 2月17日 神戸新聞 「民間団体の寄付集め NPO法人がルールを策定」
- 2月17日 京都新聞 「民間団体の寄付『行動基準』策定」
- 2月19日 朝日新聞 「寄付付商品で貢献」
- 2月20日 読売新聞 「『伊達直人』心つないで」

- 2月21日 福祉新聞 「共感得て課題解決 資金開拓の行動基準発表」
- 3月 3日 R25 「タイガーマスクはブームじゃない！みんなの寄付入門」
- 3月11日 日経産業新聞 「日本の寄付文化 NPO、仕組み改善に期待」
- 3月25日 毎日新聞 「東日本大震災—暮らしどうなる？」
- 3月29日 読売新聞 「買物通じ被災地支援—代金を義援金に」

2) CANPANブログでの情報発信

協会の公式ホームページとは別に、CANPANブログにて、「事務局便り」と題して、協会の動きなどを掲載。1年間で258本のブログ記事を、月曜日から金曜日まで、ほぼ毎日掲載した。

5. その他

商標登録

今後、各地でファンドレイジングに関する取り組みが他団体でも実施されることが予測される中で、協会ブランドを確立していくために、以下の事業名称などを商標登録した。

- ①「Giving Japan」（寄付白書の名称として）
- ②日本ファンドレイジング協会（団体名称として）
- ③フィランソロピーガイド（フィランソロピー教育の資格認定者の名称として）

<2> 寄付文化革新事業

1. 研修事業

1) ファンドレイジングセミナー開催（全6回）

一般向けセミナーとして、テーマを「支援者とのリレーションマネジメント」として、広くNPO関係者などを対象としたセミナーを6回開催した。（別添資料⑦）

第1回 2010年8月18日 18:30~20:30（参加者数：109人）
「社会をデザインする」

講師：株式会社毎日アースデイ 代表取締役 池田正昭 氏

第2回 2010年9月9日 18:30~20:30 (参加者数：108人)

「パブリックスピーキング」

講師：株式会社コムニス 代表取締役 蔭山洋介 氏

第3回 2010年9月29日 18:30~20:30 (参加者数：100人)

「ソーシャルメディアが『縁』を広げる」

講師：NPO法人CANPANセンター 理事 久米信行 氏

社団法人シャンティ国際ボランティア会 国内事業課 課長 鎌倉 幸子氏

第4回 2010年10月21日 18:30~20:30 (参加者数：94人)

「幸せの循環をつくるドナー・リレーションシップ・マネジメント」

講師：株式会社ファンドレックス 取締役 吉田憲司 氏

第5回 2010年11月11日 18:30~20:30 (参加者数：86人)

「『ジャスト・ギビング』する人たち」

講師：一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン 業務執行役員 佐藤大吾氏

第6回 2010年11月26日 18:30~20:30 (参加者数：97人)

「ファンドレイジングが社会を変える」

講師：日本ファンドレイジング協会 常務理事 鵜尾 雅隆

いずれのセミナーも、参加者へのアンケートでは、満足度、わかりやすさ、ともに5点満点の4点を超えており、成功裡に終わったと言える。

第1回：満足度 4.33 わかりやすさ 4.15

第2回：満足度 4.30 わかりやすさ 4.36

第3回：満足度 4.56 わかりやすさ 4.63

第4回：満足度 3.73 わかりやすさ 3.89

第5回：満足度 4.85 わかりやすさ 4.82

第6回：満足度 4.44 わかりやすさ 4.59

2) ファンドレイジング研究会開催 (全11回)

「ファンドレイジング研究会」は、当協会の会員を対象として、NPOの資金調達改善の事例研究やスキルアップ研修を実施することを目的とするもの。昨年に引き続き、約月一回のペースで開催。大阪での開催も含めて11回開催した。

この研究会は、相互の学び合いの環境を担保するために、人数を25名程度として、参加型で開催することで、ノウハウや知見の集約、共有を図った。

毎回、研究会では、終了後に「1時間だけ」の懇親会を開催。毎回、ほとんどの参加者が参加、講師を交えて、和やかな交流と熱心な議論が続いた。

なお、研究会では、毎回、終了後の1週間後の週末に、参加者がオンライン上（ファンドレイジングネット）で研究会を振り返る週末書き込みイベントを行った。これは、研究会の2時間だけではなく、その後に皆で振り返ることで、さらに学びが深まることを企図して実施している。

第8回

2010年5月20日 18:30~20:30

「AFP大会報告会」（48名）

報告者：日本ファンドレイジング協会 鵜尾雅隆、徳永洋子

第9回

2010年6月28日18時30分~20時30分

「ファンドレイザーが知っておくべきNPOのマーケティング」（42名）

講師：長浜洋二氏

第10回

2010年7月21日 18時30分~20時30分

「チラシ道場」（32名）

講師：吉田理映子氏

第11回

2010年8月19日 18時30分~20時30分

「キャンペーン型ファンドレイジング」（21名）

講師：玉田雅己氏

第12回

2010年9月16日 18時30分～20時30分

「戦略的な大口寄付開拓」(17名)

講師：マルタ・M・レジェコフスキー 氏

第13回

2010年10月6日 18時30分～20時30分

「対人コミュニケーション」(20名)

講師：黒木桂櫻 氏／はしながゆたか 氏

第14回

2010年11月1日 18時30分～20時30分

「慶應義塾創立150年記念事業から学ぶ」(20名)

講師：澤藤正哉 氏

第15回

2010年12月17日 18時30分～20時30分

「自団体に最適な寄付者データベースを導入するには具体的に何をしたらいいのか？」(29名)

講師：吉田憲司 氏

第16回

2011年1月7日 18時30分～20時30分

「クリスマス・歳末キャンペーン徹底比較！」(21名)

事例共有者：清野陽子 氏／渡辺日出夫 氏

第17回

2011年3月4日 18時30分～20時30分

「ファンドレイジング・日本2011振り返り会」(20名)

ファシリテーター：鶴尾雅隆

3) ファンドレイジングセミナーin大阪

2011年2月7日、大阪ボランティア協会の協力を得て、ファンドレイジング大会にアメリカから招聘した、サーベイ・アーミーを率いたソーシャル・メディアの第一人者ニッキ・ノーブル氏とブラックバウド社クライム・ラム氏を講師に、「ファンドレイジングの潮流と明日への期待」と題するセミナーを開催した。このセミナーには、大阪のみならず

九州などから、約100名の参加者を得た。

4) ファンドレイジング研究会in大阪

2010年8月2日に、地域活動展開の一つとして、大阪ボランティア協会の協力を得て、「コース・リレイテッド・マーケティングは救世主になれるのか!？」と題する研究会を開催した。講師は、野村尚克氏と鵜尾雅隆。約40名が参加した。

5) 委託事業によるセミナー

神奈川県のご委託により、企画・立案も含めた委託事業として、かながわコミュニティカレッジで以下の連続セミナーを開催した。

2011年3月1日(火) 13時30分～16時40分

神奈川県かながわ県民活動サポートセンター
活動資金を集めよう!

「成功事例から学ぶファンドレイジングのコツ」

2011年3月8日(火) 13時30分～16時40分

神奈川県かながわ県民活動サポートセンター
「助成金の獲得から事業遂行までⅠ・Ⅱ」

6) 出前カフェ

協会の地域における活動展開の一つとして、地域の会員の協力によって、職員の地方講演時に、その前後に協会会員との勉強会と交流会を開く下記の2つの「出前カフェ」を行った。各回とも参加者は10名。協会活動への理解を深めてもらった。

・ 出前Cafe in 福井

日時：2010年9月22日(水) 16:00～18:00

場所：福井県社会福祉センター

協力：福井県共同募金会

講師：徳永洋子

・出前Cafe in 鳥取

日時：2010年10月6日（水）15：00～17：00

場所：とりぎん文化会館（鳥取県民文化会館）

講師：鵜尾雅隆

2. ファンドレイジング大会開催

2011年2月5日・6日、日本財団ビルにて、第2回目となるファンドレイジング大会「ファンドレイジング・日本2011～新しいコト、さあ始めよう！～」を開催し、全国から510名の参加者を得た。

オープニングセッションには、アメリカからソーシャル・メディアの第一人者ニッキ・ノール氏とブラックバウド社のクライム・ラム氏を招聘し、基調講演を行った。2日間、全24セッションと5つの特別プログラムでは、ファンドレイジングのノウハウ、ツール、成功事例などを発表した。

大会では、日本中で、拡がりをみせている非営利団体のファンドレイジングの成功事例を数多く集め、数多くのセッションを通じて、学び・気づきを提供する2日間となった。またソーシャル・メディア（Twitter）を活用したプログラムも設けられた。

協賛団体・企業による展示ブースコーナーでは、ファンドレイジングに有効なサービスやグッズが紹介され、参加者の人気を集めた。

書籍販売コーナーでも、講師の著書を中心に、約25種の書籍を委託販売し、好評を得た。

1) プレイベント

今年度は、初めての試みとして、2月4日に下記のプレイベントを催した。

・オプションツアー

 CANPANセンター

 世界の子どもにワクチンを 日本委員会（前年度「ファンドレイジング大賞」の受賞団体）

 アドボカシーの現場：国会見学とNPO議連議員との交流

・「寄付白書2010」発行記念講演

・「寄付白書2011」発行記念パーティ

2) 開催告知の広報活動

協会では、この大会開催を毎年のメインイベントと位置付け、集客、及び協会の認知度の向上を図るべく、事前の広報活動に注力した。特に、大会開催概要（全24セッションの解説付き）は20000部作成。関係機関の協力も得て、日本各地に配布した。

3) 開催概要

- ・開催にあたっては、ボランティアの協力を得て準備を進めた。ボランティアを公募する他、ボランティアへの説明会も開催。円滑な活動が図れるように「運営者用資料」を作成して配った。
- ・大会には約510名の参加者を得た。そのうち、有料参加者数は392人。加えて、講師、招待客（含むマスコミ関係者）と運営者。
- ・参加者のうち、地域的には関東圏からが68.9%。その他、北海道から沖縄までの全国各地から参加を得た。職業的には、31.1%の人がNPOの有給職員・ボランティア、企業関係者が26.3%、公務員が4.1%と続く。
- ・1日目の夕刻には交流会も開催し、米国からの招聘講師をはじめ、各セッションの講師も交えて、150名が参加した。
- ・今年度は、協賛団体として、企業・団体から協賛や助成を募り、その結果、386万円を得た。

～協賛団体～

- ・セールスフォース・ドットコム ファウンデーション
- ・株式会社バリューブックス
- ・株式会社エースデザイン
- ・一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン
- ・公益財団法人信託資本財団
- ・株式会社ソノリテ
- ・ダイレクトマーケティングジャパン株式会社
- ・株式会社ファンドレックス
- ・富士ゼロックス東京株式会社

※これらの協賛団体、日本財団、協会については、ブース展示を行った。

- ・また、前年度の実績が評価され、内閣府、外務省、米国商工会議所などから後援を得た。

～後援団体～

- ・ 内閣府
 - ・ 外務省
 - ・ 在日米国商工会議所
 - ・ NPO法人NPO会計税務専門家ネットワーク
 - ・ 社会福祉法人大阪ボランティア協会
 - ・ 社団法人企業メセナ協議会
 - ・ 公益財団法人公益法人協会
 - ・ NPO法人国際協力NGOセンター(JANIC)
 - ・ NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
 - ・ 公益財団法人助成財団センター
 - ・ 東京ボランティア・市民活動センター
 - ・ NPO法人日本NPOセンター
 - ・ 公益社団法人日本フィランソロピー協会
- ・ 2日間の全24セッションの内容は、ファンドレイジングに関するノウハウ・ツール・成功事例の検証など。加えて、ランチセッション2つ、モーニングセッション1つを行った。
 - ・ 1日目の夕刻には交流会も開催し、米国から招聘した2講師はじめ、各講師も交えて、約200名が参加した。
 - ・ クロージングセッションでは、「ファンドレイジング行動基準」を発表。また、「第2回日本ファンドレイジング大賞」を「あしなが育英会」に授与した。

4) その他

- ・ オープニングセッションは、USTREAMでライブ中継した。
- ・ 大会の記録として、ビデオを作成。このビデオは、DVDとして関係者に配布した。

・大会をNHKが取材し、2月5日午後6時のニュースで報道された。

・来年度の開催は、2012年の2月4日と5日。プレイベントは2月3日。

3. 出版事業

1) 寄付白書2010

2010年12月20日、「寄付白書2010」を経団連出版から創刊した。また、3月末には英語版も完成。印刷物と合わせて、ウェブ上からダウンロード販売を行う。

「寄付白書2010」の発行については、「発行パートナー」を募集し、約300万円の寄付を得た。

発行に際しての記者会見では、5大紙を含む15名の記者が参加して、社会的な関心を集めた。

この白書は、全国120の主要大学図書館・公立図書館に寄贈。3月31日現在 2131冊（初版4000冊）を販売した。

2) 季刊誌として、ファンドレイジングジャーナル、「FUNDRAISING」を発行した。

今年度は以下の全3号を発行した。なお、第7号は東日本大震災の影響で、発行・配布が遅れ、2011年度の事業となった。

- ・ 第4号 2010年6月発行
特集「新しい公共とファンドレイジング」
- ・ 第5号 2010年9月発行
特集「Fundraising Seminar 2010」
- ・ 第6号 2010年12月発行
特集「FRJ2011」

このジャーナルは会員に対しては会員特典として無料配布。その他、有料定期購読者は105名。

4. 普及啓蒙事業

1) フィランソロピーモデル事業

協会では、設立当初より、フィランソロピー社会の実現に向けて、子どもたちへの寄付者教育を行うこととしていたが、今年度、その取り組みを開始した。

2010年9月には有識者（中央共同募金会・（株）ウィルシード・埼玉県庁・鶴ヶ島市社会福祉協議会）とワーキンググループを立ち上げて準備を開始。下記の2校で「寄付の教室」を開催した。

・12月8日・9日

学校名：鶴ヶ島市立富士見中学校（埼玉県）

参加者数：107名（2年生3クラス）

・1月28日

学校名：北九州市立石峯中学校（72名）

福岡県立若松高等学校（40名）

2) 「ファンドレイジング行動基準」

前年度に発表した「寄付者の権利宣言 2010」に対するものとして、ファンドレイザーが守るべき行動基準についての策定を開始。

海外の事例を検証し、国際基準については、他の26カ国に次いで日本の協会として「承認」の意を示した。（9月30日に持ち回り理事会で決定）

この国際基準に沿った行動基準を策定することとし、ファンドレイジング行動基準策定委員会を10月に設置、草案を策定し、12月に広く意見募集を行い、その結果を反映させた「ファンドレイジング行動基準」を2011年2月6日、ファンドレイジング大会のクロージングセッションで発表した。

5. その他

1) 講師派遣

2010年4月21日（水）8：00～9：30

総務省有志によるおっはー！クラブ

「朝食勉強会」

2010年5月19日（水）13:00～16:00

千葉県NPO

「紹介CMづくりを通じて高めるファンドレイジング力」2回目

2010年6月2日（水）13時30分～15時30分

国土交通省

「新しい公共」は日本の寄付、そしてNPOを変えるか？

2010年6月28日（月）・29日（火）

中央共同募金会

「第1回赤い羽根全国ミーティングinくろべ」

2010年7月3日（土）13時～15時

府中NPO・ボランティア活動センター

第7回市民活動支援講座「助成金セミナー」

2010年7月26日（月）18時30分～21時

立教大学 21世紀社会デザイン研究科

公開講演会「社会の公器としての人材発掘・育成・支援のプラットフォームを―「公志」を実現する社会イノベーターの創出へ向けて」

2010年8月23日（月）10時～12時半

かながわ福祉サービス振興会

「障害福祉事業所のためのファンドレイジング講座」

2010年9月23日（木）10:00～16:00

福井県社会福祉協議会

「ふくい・つながりフォーラム2010～つながれ！80万人のボランティアの輪～」

2010年10月6日（水）18:30～21:10

鳥取県総合芸術文化祭実行委員会

「とりアート平成22年度アートマネジメント研修会」

2010年10月23日（土）13:00～17:00

アイ・エス・エル（ISL）

「社会イノベーター公志園「公志園動画」ビデオ作成講座」

2010年11月5日（金）12：00～17：00

米国研究製薬工業協会

「PhPMAインフォメーション・セッション」

2010年11月18日（木）・19日（金）

NPO活動推進自治体フォーラム島根大会実行委員会

「NPO活動推進自治体フォーラム島根大会」

2010年11月29日（月）13：30～16：20

千葉まちづくりサポートセンター

「ファンドレイジング演習①」

2010年12月3日（金）13時20分～16時20分

千葉まちづくりサポートセンター

「ファンドレイジング研修②」

2011年1月23日（日）13時～16時

とす市民活動ネットワーク

「寄付文化について」

2011年1月24日（月）18時30分～20時30分

北九州市障害福祉ボランティア協会

「オカネ集めのコツを考える」

2) 「ファンドレイジングネット」の運営移管とリニューアル（別添資料⑭）

2010年4月に、オンラインコミュニティ「ファンドレイジングネット」の運営が、シーズ・市民活動を支える制度をつくる会から移管された。

5月10日には、会員の中からソーシャルメディアに詳しい人に集まってもらって「ファンドレイジングネット検討会」を開催。検討会で出た意見をもとに、仕様・機能を改変し、10月2日にリニューアルオープンした。

3) 海外のファンドレイジング協会との連携

日本における唯一最大のファンドレイジング協会であることを内外に示すために、海外のファンドレイジング協会との連携を深めている。また、今後、認定ファンドレイザー資格制度創設に向けては、他国と連携して、国際的にも通用する資格制度としていくことを企図している。

具体的には、4月に開催された米国ファンドレイジング協会（AFP=Association of Fundraising Professionals）の国際大会に招待されて参加。また、9月には、国際組織「Resource Alliance」から、国際ファンドレイジング大賞の候補団体に、2010年度「日本ファンドレイジング大賞」受賞団体のエントリー要請があり、「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」を推薦した。

4) 東日本大震災に関連して

2011年3月11日に発生した東日本大震災について、協会は、被災者支援のための募金活動を始めようとする団体に参考にしてもらうべく、以下の2つを公開した。

- ・街頭募金10の留意点
- ・Web上で災害救援募金を行う際の10の留意点（別添資料㉔）

さらに、東日本大震災被災者支援へ寄付した人たちの寄付に込められた想いを共有する場、「I donated for Japan」という題名のページをfacebook上に開設した。

また、発生直後から広く寄付金・義援金が集まる中で「寄付」に関するマスコミ取材も続いた。

<2010年度に達成したこと>

1) 支援者拡大

会員数が、個人・法人をあわせて、281人となり、当初の目標250人を上回ったこと、また、ボランティアデーを通じてボランティアの組織化が進んだことから、2年目を迎えて組織基盤の強化が図れた。さらに、寄付白書発行に際しての発行パートナー募集に37人（190万円）の参加が得られたことも、協会の新しい取り組みに関する支援者の期待を示すものだと感じた。

2) 新しい価値の創出

セミナー、研究会、ジャーナル発行などの初年度からの継続事業に加え、寄付白書、ファンドレイザー行動基準策定、フィランソロピー教育などの新事業を通じて日本にこれまでなかった新しい価値を生み出す取り組みをスタートさせることができた。

3) 寄付市場形成主体としてのポジション確立

寄付市場の拡大に欠かせない寄付市場の可視化（寄付白書）とルール作り（ファンドレイジング行動基準）を実現したことにより、協会に関するマスコミ報道も増え、国際会議への参加、大会への米国からの講師招聘などを通じて、海外のファンドレイジング協会との交流も深まり、設立2年目で国内外に「日本の寄付市場形成主体」としてのポジショニングを確立することができた。

4) ファンドレイジング大会「ファンドレイジング・日本2011」の成功

メインイベントと位置付けているファンドレイジング大会、「ファンドレイジング・日本2011」を第1回目より内容・期間ともに拡大して開催することができた。さらに、開催に際して、マイクロソフト（100万円）などの大企業の協賛に加え、米国大使館（1万ドル助成）、内閣府（後援）、外務省（後援）、米国商工会議所（後援）といった、社会的な信頼を補強する支援を得ることができたのがよかった。

<2011年度に目指すこと>

1) 各事業の相乗効果

各事業が一定の成果を上げる中で、事業間の相乗効果を図り、成果を協会の「知」として集約していく。特に、研究会を「知」の集約の場として、2012年度に開始する「認定ファンドレイザー養成」のコンテンツにつなげる。

2) 地域との連携

認定ファンドレイザー資格認定事業を進める上で欠かせない地域の関連機関（NPOセンターや社会福祉協議会）との連携を一層深めていく。

3) フィランソロピー教育で新しい価値の創出

未来につなげる事業として、フィランソロピー教育の本格事業化をはかる。教育現場だけではなく、自治体や証券業界等の金融教育とも連携し、新しい価値の創出を図りたい。

4) 自主財源の拡大

現在、協会が行っている事業の多くは、将来に自立運営できるための先行投資だと考えている。とりわけ、将来的に事業収入源の要となる「認定ファンドレイザー資格制度」との相乗効果を考えて事業を進めていきたい。寄付白書やジャーナルなどの出版事業は資格取得のための教材として、各種セミナーは資格認定のための研修として、ファンドレイジング行動基準は資格取得の条件に…といった展開を企図して、その内容の充実と、関係者の巻き込みを図りたい。

以上

特定非営利活動に係る事業会計財産目録

特定非営利活動法人日本ファンド・レゾナンス協会

(単位：円)

平成23年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現金	82,862
普通預金	
ゆうちょ銀行	1,443,670
NPO法人三菱東京UFJ	10,808,839
NPO法人ゆうちょ銀行	993,360
現金・預金計	13,328,731

流動資産合計

13,328,731

【固定資産】

(有形固定資産)

什器 備品	762,250
有形固定資産計	762,250

(投資その他の資産)

敷 金	485,100
投資その他の資産計	485,100

固定資産合計

1,247,350

資産の部 合計

14,576,081

《負債の部》

【流動負債】

未払金	3,910,100
預り金	
源泉所得税	537,410

流動負債計

4,447,510

負債の部 合計

4,447,510

正味財産

10,128,571

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

(単位：円)

平成23年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	3,910,100
現金	82,862	預り金	537,410
普通預金	13,245,869	流動負債計	4,447,510
現金・預金計	13,328,731	負債の部合計	4,447,510
流動資産合計	13,328,731	正味財産の部	
【固定資産】		【正味財産】	
(有形固定資産)		正味財産	10,128,571
什器備品	762,250	(うち当期正味財産増加額)	2,686,801
有形固定資産計	762,250	正味財産計	10,128,571
(投資その他の資産)		正味財産の部合計	10,128,571
敷金	485,100		
投資その他の資産計	485,100		
固定資産合計	1,247,350		
資産の部合計	14,576,081	負債・正味財産の部合計	14,576,081

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

(単位：円)

自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日

《経常収支の部》

[経常収支の部]

【経常収入】

事業 収入

大会	3,913,568
研究会・講演会	1,542,300
ジャーナル発行	241,900
ジャーナル広告	150,000
Giving Japan販売	1,486,140
講師派遣等	2,197,675

助成金収入

日本財団	32,020,000
その他助成金	1,292,024

会費収入

運営会員	1,284,000
賛同会員	2,592,000

寄付金収入

一般寄付	2,369,990
Giving Japan基金	1,900,000

その他事業収入	111,400
---------	---------

受取利息収入	5,855
--------	-------

経常収入 計

51,106,852

【事業費】

大会

人件費	1,680,000
広告宣伝費	277,450
通信運搬費	674,853
会議費	251,643
諸謝金	1,731,710
印刷製本費	2,873,266
旅費交通費	391,270
雑費	12,015
補助作業員給与（アル）	97,340
備品消耗品	852,521

セミナー・研究会

会議費	80,773
諸謝金	725,471
印刷製本費	332,850
旅費交通費	254,120
人件費	1,680,000

ジャーナル発行

印刷製本費	2,079,000
通信運搬費	61,940
旅費交通費	2,860
諸謝金	760,000
雑費	9,867

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

(単位：円)

自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日

給与手当	1,680,000	
資料代	3,045	
補助作業員給与	1,550,000	
フィランソロピー教育		
旅費交通費	90,700	
印刷製本費	15,750	
雑費	7,130	
人件費	1,680,000	
補助作業員給与	1,980,000	
商標登録費	480,200	
資料収集費	60,719	
Giving Japan		
印刷製本費	1,279,320	
委託費	3,910,100	
諸謝金	2,751,832	
雑費	100,830	
人件費	1,680,000	
通信運搬費	51,025	
会議費	196,500	
補助作業員給与	220,000	
ファンドレイザー行動基準		
諸謝金	280,000	
旅費交通費	672,936	
研修費	87,820	
FRネット		
補助作業員給与	425,380	
会議費	31,332	
諸謝金	920,000	
印刷製本費	339,150	
通信運搬費	189,000	
業務委託費	1,506,750	
当期事業費計	<u>37,018,468</u>	
合計	<u>37,018,468</u>	
事業費計		37,018,468
【管理費】		
補助作業員給与	2,780,000	
法定福利費	1,293,969	
福利厚生費	37,800	
通信費	1,062,278	
通勤費	458,940	
水道光熱費	175,936	
旅費交通費	585,215	
業務委託費	222,600	
研修費	165,667	
会議費	16,796	
備品消耗品費	1,263,323	

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

(単位：円)

自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日

資料収集費	45,662	
地代 家賃	2,407,860	
租税 公課	8,600	
諸 会 費	50,000	
支払手数料	530,401	
雑 費	61,286	
管理費 計		11,166,333
経常収支差額		2,922,051
[その他資金収支の部]		
【その他資金収入】		
その他資金収入 計		0
【その他資金支出】		
その他資金支出 計		0
当期収支差額		2,922,051
前期繰越収支差額		5,959,170
次期繰越収支差額		8,881,221
《正味財産増減の部》		
【正味財産増加の部】		
当期収支差額	2,922,051	
什器備品購入額	403,830	
正味財産増加の部 計		3,325,881
【正味財産減少の部】		
什器備品減価償却額	639,080	
正味財産減少の部 計		639,080
当期正味財産増加額		2,686,801
前期繰越正味財産額		7,441,770
当期正味財産合計		10,128,571

※1 資金の範囲は現金預金及び短期金銭債権債務とする。

監査報告書

2011年6月1日

NPO 法人

日本ファンドレイジング協会

代表理事 堀田力 様

監事 浅野晋

同 脇坂誠也



私たちは、2010年度（2010年4月1日から2011年3月31日まで）の事業報告及び計算書類（財産目録、貸借対照表及び収支計算書）について監査を行った。

私たちは、理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、理事会に出席し、必要と認める場合には質問を行った。また、財産の状況に関する監査に当たっては、帳簿や証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、団体の業務は法令及び定款に基づき適正に処理されているものと認められた。

よって、私たちは、上記の業務報告書及び計算書類が、NPO法人日本ファンドレイジング協会の2011年3月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況及び同日現在の財産の状況を適正に表示しているものと認める。